

立川駅北口デッキ上アーチの色彩検討資料

平成 13 年に建設されて以来、立川駅前のシンボルとしておなじみの北口アーチですが、10 年が経過し、塗装の劣化や汚れが目立つ状態となってきました。そこで市は維持管理コスト低減を図るため耐久性の高い塗装による、アーチの塗り替えをおこなうこととしました。塗り替えにあたり、市は専門家の方々のご意見も聴き、シンボル性やメンテナンス性から次の 5 案を選定しました。立川駅前にふさわしい色はどの色でしょうか。市民の皆さまのご意見をお待ちしています。

案	A 案 (単色・青系) 現況の色を継承	B 案 (単色・紫系) 立川市を象徴	C 案 (単色・赤系) アートとして演出	D 案 (単色・グレー系) アーチの素材感を活かす	E 案 (複数色・暖色系グラデーション) 目を引く演出
イメージ (HPのみ)					
説明	<p>すでに約 10 年に渡り立川駅北口の街並みのシンボルとして、色彩を含めて周知されていることを尊重し、青系の色彩を継承します。</p> <p>現状と同様の青系であるため、街並みの印象を大きく変えずに、現状よりも濃い青とすることで、背景の街並みとのメリハリがつき、ダイナミックな形態を街並みのアクセントとして活かすことができます。</p>	<p>立川市の玄関口に位置するシンボルとして街がさらに発展するよう、立川市を象徴する市旗の紫系の色彩とします。</p> <p>紫は、使い方の難しい色といわれていますが、個性的な色であるためインパクトがあります。</p>	<p>アートのまちの導入部をイメージする立川駅北口のランドマークとして、メリハリの利いた赤系の色彩によりアーチの存在を引き立てます。</p> <p>街並みの印象が大きく変わり、色彩としてインパクトがあるため、アートのある北口のランドマークとなります。</p>	<p>立川の歴史を彷彿させる飛行機のメタリックなイメージなど、素材感を重視した無彩色系の色彩により、洗練された街並みとなるよう演出します。</p> <p>シャープで洗練された印象となりますが、街並みの雰囲気は大きく変わらず、街並みにとけこみます。</p>	<p>アーチ部分はデッキ上の脚部のみを見ても、街並みに調和する黄色の暖かみのある色彩とします。</p> <p>2本のアーチをつなぐ細い部材を、黄色から橙色への効果的なグラデーションに塗り分け、造り込みによるおもてなしの心を表現します。</p>